

市原市認知症対策連絡協議会 例会 議事録 (2020年度第22回例会)

日 時 2020年10月22日(木) 18:30~19:30

場 所 Zoomを使った例会

出席者 34名

書 記 高橋瑞穂、飯吉裕樹

内容

(1) 開会のあいさつ(小沢先生)

(2) 各施設の状況(コロナ禍において:面接、感染症対策等々)

飯吉(なんな苑)

入所定員100名に対して現利用者は83名、
ディケアの利用者は1日36名定員に対して10~20名程度の利用者。

コロナ対策のためリハ室を改良。新たな機器も導入。スタッフも増員している。
リハスタッフは理学療法士常勤2名、言語聴覚士1名、作業療法士1名(予定)
その他非常勤のスタッフが理学療法士、作業療法士で配置してあるため、
1日3名以上のスタッフが勤務しており、個別リハにも集団リハも以前より充実している。
リハビリの時間はサービス毎(入所階、レベル、ディケア等)に時間を分けて運用している。

利用者とその家族との面会については現在検討等中。

Lineを使った面会は継続中。

利用者は減ってしまった。現在新規利用者を募集中である。

小沢先生(ろうさい病院)

病床は重症者が多く満床状態である。緊急での対応が難しい状況である。

外来も混雑している。

病院入り口で体温測定器を設置している。

コロナ対策として入院患者への家族の面会は禁止されている。

入院患者に対するPCR検査がはじまった。

近藤氏(トータス)

通いの場は中止、または人数制限を設けて対応している。

藤盛氏(鶴岡病院)

入院患者の方はディへ行けなくなってうつになっている。

コロナ禍の不安で相談も増えている。

陽氏(株式会社ケアリフォーム)

非常事態宣言後より住宅改修の依頼が増えた。

これから、インフルエンザの季節になり、さらに増えるのではないかと。

宮崎氏(包括国分寺台・ひまわり)

認定申請依頼も増加。

ケアマネに依頼も増えている。

青木氏（傾聴の会ひだまり代表）

傾聴の会は37名いるが、2月25日から直接に会っての傾聴活動を中止している。

しかしながら、言語聴覚士の安田先生とオンライン傾聴を継続した。

現在それが役に立っているが増員が難しい状況である。

施設（ひまわり）にて月に4回（1回1時間程度）活動をしている。

面と向かっては言えないような事を口にできるメリットがオンラインにはある。

今後個人宅でのオンライン傾聴を増やしていく予定。

三郷市からオンライン傾聴での活動を問い合わせてきた。

12月3日に訪問予定となっている。

施設でのWiFiの導入を推進していこうと思っている。

補助金のパンフレットをお見せします。

袴田氏（さらしな病院）

伊藤氏に代わって今後市認協の役員を引き継いで頂きました。

コロナ患者は無し。

コロナ対応は継続で面会はできない。

今後ウェブ面会も検討中。

リハビリの場所は分けている。

- (3) 小ネタ講演：新型コロナウイルス感染症ガイドライン（小沢先生）
厚生労働省のホームページに記載されているガイドライン第3版参照

<https://www.cb-m.co.jp/wp-content/uploads/103039373aaa02ecb8f0898b5ec84bcd.pdf>

- (4) いちはら認知症フェスタ中止について（市原市役所 佐藤氏）
今回は感染所対策を行うことも難しい状況であると判断し、いちはら認知症フェスタは中止ということになった。

来年度の開催については会員の皆様と相談しながら進めていきたい。

- (5) キリン助成金について

「キリン・地域のちから応援事業」の上限30万円の助成金の申請を行っている。

申請内容は今年はコロナ禍により中止になった「いちはら認知症フェスタ」であるが、来年度は助成金を使ってしっかりとコロナウイルス対策を施して開催したいという旨の内容で申請を行った。

(6) その他

佐藤氏（市原市役所）

「いちほら健幸フェスタ」が保健センター主催によりユニモにて開催。
小沢先生が認知症相談として参加して下さいました。

安田先生（斎賀医院）

オンラインでの傾聴の取り組みを行っている。

認知症の方の参加が少ない。

サポートがあれば認知症の方でも十分に **Skype** を使うことができる。

広がらない理由は認知症の人は設定ができないという周囲の思い込みである。

月に一回辰巳公民館にてパソコンの説明会を行っている。

今後公民館での運用を広げていきたい。

また、施設の面会でも利用を増やしていきたいと考えている。

パンフレットは佐藤氏（市原市役所）に連絡をして頂ければ受け取れるようになっている。

(7) 閉会のあいさつ（永野先生）